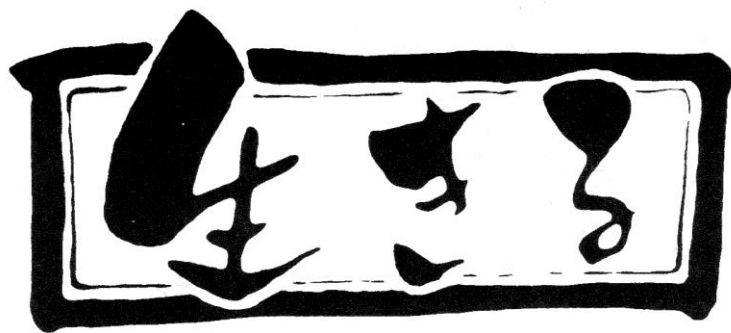




真宗大谷派 存明寺通信

No.185

2018年(仏歴2549年)7月7日発行

私を照らすひかりの言葉

私も あの犯人と

同じことを 考えたことがある

それが どんなに悪いことか

今 あの人が おしえてくれた

(星野富弘 『ハナダイコン』)

私たちが人生で求め続けるものは

自分自身への深い納得であり

うなずきにあるのでしょうか

(平野 修 『民衆の中の親鸞』)

自分の都合よくなることが救いではありません

自分の欲が満足することが救いではありません

自分が生きていける道が

大地が見つかることが救いでしょう

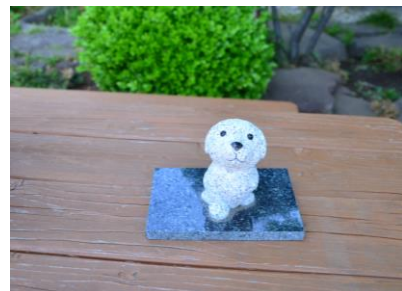
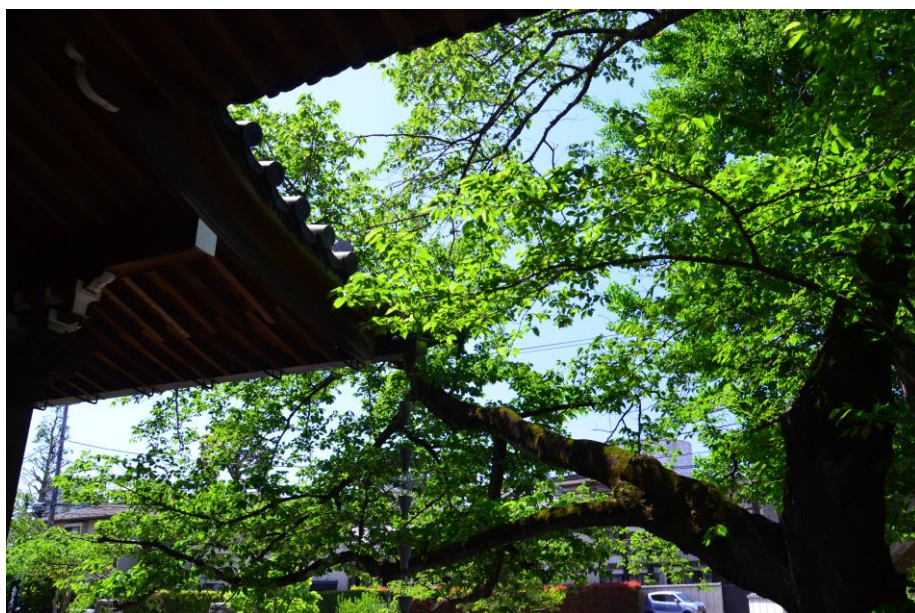
(平野 修 『民衆の中の親鸞』)

同情ほど された者の自立を妨げ

蔑み 人の関係を断ち

孤立させるものではありません

(祖父江文宏 『悲しみに身を添わせて』)



存明寺HP、随時更新中 そんみょうじ 存明寺HP、随時更新中 しんらん 親鸞と出会うお寺 であ

<http://www.zonmyoji.jp>

根のこころ

酒井 義一
(存明寺住職)

梅雨^{つゆ}時になるとアジサイがその存在感を発揮します。夏になるとムクゲやサルスベリでしょうか。普段はそこにあることすら見過ごしてしまっているのに、その季節になると植物たちは花を咲かせ、まるで「私はここにいます」と主張しているかのようです。

ところでそれらの植物は、花が咲いている時だけ張り切って働いているのでしょうか。あとの季節はお休みをしているのでしょうか。当然ですが、それは違います。春には芽を出し葉が育つ。夏には花を咲かせ光を浴びる。秋には葉を落とし大地を潤す。冬には寒さの

中で次の季節の蕾を蓄える。つまり花が咲いていない時や枯れてしまったかのように見える冬の時も、植物は常に働き続けているのです。当たり前のことですが、それは普段なかなか見えてこないことでもあります。

それらの植物を生かし続けているのは、目には見えないけれども土の中に確かにある根っこです。根は常に「生きよう」「生きよう」として働き続けているのでしょうか。たとえばどのような季節のなかにあつたとしても、常に生きようとしているもの、それが「根のこころ」なのです。



思えば私たち人間にもいろいろな時期があります。期待に胸が膨らむ春のような時、花が開くかのような輝く時、葉を失い無常を感じる時、寒さに震えてじっと耐える時。それは別の言い方をすれば、楽しい時、愉快的時、悲しい時、苦しい時ということでしょうか。

それらをぐるぐると繰り返し体験していくことが生きるということなのかもしれません。

そのような中であつて、たとえばどのような時がめぐつてきたとしても、目に見えないところで私たち人間の奥底で、根のこころが「生きよう」「生きよう」と働き続けているのではないのでしょうか。それは、私を支えるいのちそのものの願い。いのちそのものは、いつでも「生きよう」「生きよう」という願いをいだけ続けているというのです。

浄土真宗という仏教は、根のこころを知り続けていく宗教です。花の美しさや緑のきれいさを競いあつたり、目に見える葉や枝ぶりを誇つたりする宗教ではありません。

普段は気がつかないけれども、私そのものを支え、私の奥底に働いている根のこころを知り続け、出遇い続けていく宗教です。

そのような道に出遇い、歩んでいくことを大切にしたいものです。

了

いのちには

願いがある

わたしたちは

生きようとする

いのちに囲まれた

生きようとする

いのちである

(アルベルト・シュバイツァー)



存明寺写真館 2018年前半



↑ 存明寺に降る雪(1月)



↑ 年のはじめの修正会



↑ 修正会での書き初め



↑ 修正会 親鸞聖人像の前で記念写真(1月)



↑ しんらん交流ひろば★樹心の会の語り合い(3月)



↑ おみがき奉仕のつどい(4月)



↑ 永代経法要の門徒交流会(5月)



↑ 永代経法要の講師・海先生と(5月)



↑ しんらん交流ひろば★樹心の会の風景(5月)



↑ グリーフケアのつどいのスタッフと準スタッフ(6月)

7月14日(土) 11時と13時 お盆法要

お話し：尾崎昇さん・佐藤幸子さん・酒井住職
8月25日(土) 15時 青年のつどい

毎年恒例の境内バーベキューと語りの時間

9月8日(土) 13時半 樹心の会

お話し：末次皓子さん・酒井義一住職

9月23日(日) 11時と13時 秋のお彼岸法要

お話し：長島巖さん・竹谷タケ子さん・住職

9月29日(土) 14時 グリーフケアのつどい

内容：勤行・法話・語り合い・音楽鑑賞

10月13日(土) 13時半 樹心の会

お話し：浮葉貴大さん・酒井義一住職

10月27日(土) 10時 おみがきのつどい

報恩講法要へ向けてのおみがき奉仕のつどい

11月2日(金) 14時 報恩講のゆうべ

お話し：知花昌一さん(沖繩・何我寺)

11月3日(土) 12時 報恩講法要

講師：知花昌一さん(沖繩・何我寺)

11月17日(土) 13時半 樹心の会

お話し：羽田節子さん・酒井義一住職

11月24日(土) 26日(月) 真宗本廟奉仕団

12月8日(土) 13時半 樹心の会

お話し：高橋昭彦さん・酒井義一住職

12月15日(土) 14時 グリーフケアのつどい

1月1日(元旦) 10時 修正会

◎ぞんみようじこども会 月一回

◎ぞんみようじこども食堂 月一回

◎子育てサロンいちごのへや 月一回

秋のお彼岸(ひがし)法要

9月23日(日)

11時と13時(2回)

内容 正信偈の唱和・お話し

お話し 酒井義一住職とご門徒有志

※一回40分程度。ご参詣ください。

報恩講法要へのご案内

宗祖親鸞聖人の「命日を縁として勤められる浄土真宗では最も大切にされている法要です。ぜひご参詣下さい。」

沖繩からはるばる知花昌一さんをお招きします。親鸞聖人の教えに出会われた思いを語っていただきます。

○報恩講のゆうべ(速夜勤行・法話)

11月2日(金) 13時半受付 14時開会

○報恩講法要

11月3日(土) 11時半受付 12時お斎

お斎(精進料理のお弁当)の後に、法話・報恩講法要が行われます。

講師 知花昌一さん

(沖繩県何我寺・大谷派僧侶)

会費 お布施(おこころざし)

お斎をご用意しています。申し込みは必要ありません。ご参詣下さい。

今号の写真はすべて高橋昭彦さん(存明寺世話人)の提供です。

【あしがき】

▼6月の終わりに梅雨が明けたというニュースが届きました。今年の夏は暑くなるということ、どうぞ御身くれぐれもご自愛ください。

▼今年の夏はあまりあちこちに出かけずに、今までやれなかったことに取り組み予定です。お寺のかたづけやそうじ、パソコンや事務所の整理、仏教書や講義録の読みなおしなど。それが還暦に近くなった住職の「夏休みの宿題」(?)です。

▼それぞれの大切な時を、どうぞ丁寧に過ごしてください。(住職)



東京都世田谷区北烏山4-15-1

真宗大谷派 存明寺

住職 酒井義一(釋諦信)

TEL 03-3300-5057

FAX 03-3300-5880

E-mail : sakai@zomyoji.jp